



2019年10月21日

日本鉄道労働組合連合会

## JR連合第11回安全シンポジウム

# JRで働くすべての仲間が安心して 働き続けることのできる安全な職場づくりへ

10月16日、JR連合は高松市内において、「第11回安全シンポジウム」を開催し、JR連合加盟の各グループ単組を含め多数の組合員、連合加盟産別・交運労協など約400人が参集した。テーマに「すべてのJR職場の安全確立にむけて～JRで働く仲間の労働災害を撲滅すべく取り組みを推進しよう！～」を掲げ、JR連合加盟101単組をはじめ、JR産業を構成する業種・業態のすべての職場から労働災害をなくしていく決意を共有した。

第一部として中央労働災害防止協会中国四国安全衛生サービスセンターの山岡和寿所長からは「みんなで安全確認 安全職場ヨシ」をテーマに、指差呼称の役割や重要性、組織コミュニケーションの課題などについて講演いただいた。さらに、JR四国鉄道事業本部安全推進室の岡本真一室長からは「JR四国グループの安全推進」として、安全推進計画の内容や進捗、グループ各社の安全の取り組み等を説明いただいた。



第二部では、エリア連合からの報告として、JR東海連合の尾内裕昭事務局長、JR西日本連合の白壁靖子事務局長、貨物鉄産労の小山達礼中央執行委員から、安全ディスカッションなどの安全の取り組みについて説明を受けた。

第三部は「安全で安心して働くことのできる職場づくりにむけて」と題したパネルディスカッションを行い、山岡所長に加え、電力総連の山本貴生次長、JR四国ホテルズの高島雅彦常務取締役、NESCO労組の八木大星執行委員長がパネリストとなり、JR連合の今井孝治企画部長がコーディネーターを務め、労働災害の実情と背景、人材確保、離職防止の取り組み、新技術を活用した安全対策などについて討議した。

これらを受けて、JR連合の中村鉄平交通政策部長が「JR連合からの提起」として、「さらなる安全確立に向けた取り組みを強化すべく、健全で建設的な集团的労使関係をすべてのJR産業に広げていき、協力会社を含むすべての働く仲間から安全に関する意見を集約し、労働災害のない、安全なJR産業を創出しよう！」と力強く訴えた。